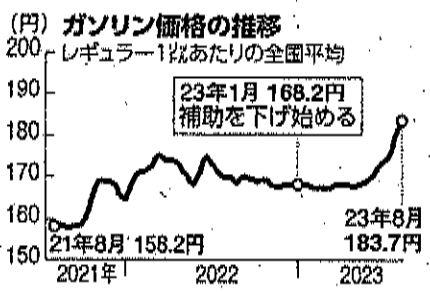


8/24 朝日

# ガソリン 最高値に迫る

## 183.7円 14週連続値上がり

経済産業省は23日、レギュラーガソリン1リットルあたりの全国平均価格



21日時点)が前週から1.8円上がり、183.7円になったと発表した。過去最高値を記録した2008年8月の185.1円が目前に迫る水準だ。政府が価格を抑えるための補助金を段階的に減らしていることに加え、原油価格の上昇と円安も響いたとみられる。補助金は9月末に終了する方針だったが、岸田文雄首相は22日、延長を含めた物価高対策を与党に指示した。今後、ガソリン価格を抑えるために補助金を増やす公算が大きい。

経産省によると、平均価格は補助金などによって1.5円安くなったという。それでも5月15日以来14週連続の値上がりで、3週連続で180円台となった。政府は昨年1月、世界的なエネルギー価格の高騰を受け、1リットルの平均価格が170円を越えないよう5円を上限に補助を始めた。石油元売り各社にお金を出し、ガソリンスタンドへの卸売価格から差し引く仕組みだ。

翌2月のウクライナ侵襲で原油価格がさらに高騰して以降、補助の延長

や拡充を繰り返してきた。一時は原油価格が落ち着いたこともあり、今年に入って補助金の上限額や補助率を段階的に下げ、10月にはゼロにする方針だった。予算総額は6.2兆円にのぼり、9月までに3.1兆円を投じてきた。

今後もガソリン価格の値上がりが続く可能性がある。代表的な指標の米産WTI原油先物価格は今年に入って1.5ドル60セント後半まで下がったが、足元では80セント前後となっている。

円相場も1ドル145〜146円台で推移し、今年最安値の水準まで下落している。

(伊沢健司)